

地理歴史科「選択日本史B」 シラバス		2単位	普通科 第3学年選択者	
年間の到達目標		1 近現代史を中心とする我が国の歴史の展開を学びます。 2 2年次に学んだ世界史の内容を踏まえ、世界史的視野に立って、我が国を取り巻く国際環境などと関連づけて理解を深めます。 3 1と2の学習を通じて、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を身につけます。		
教科書・副教材等		新選日本史B(東京書籍)・日本史のライブラリー(東京法令出版)		
学期	月	学習内容	学習のねらい	
1	4	「選択日本史」学習について 1 歴史の考察	<ul style="list-style-type: none"> 「選択日本史」学習の意義や内容、学習や評価の方法を理解します。 様々な歴史的資料の特性に着目し、資料をもとに歴史を調べ考える学習を通じて、歴史を考察する基本的な方法を理解します。 	
	5	2 近代国家の形成と国民文化の発展 (1) 開国から明治維新へ		
	中間調査範囲		上記の教材	<ul style="list-style-type: none"> 産業、学問、思想、教育における近代の芽ばえや欧米諸国のアジア進出に着目しながら、幕藩体制が動揺する時期の内外情勢について理解します。 文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸制度の改革に伴って生じた社会・文化の変化に注目します。 そして、開国や明治維新から自由民権運動を経て立憲体制が成立するまでの我が国の近代国家の形成について理解します。 条約改正や日清・日露戦争前後の欧米諸国やアジア近隣諸国との関係の変化及び産業革命の進行に着目して、我が国の対外政策の推移と近代産業の成立について理解します。
	6	(2) 立憲政治の形成と国民文化		
	7	(3) 日本の近代化と東アジア		
	期末調査範囲		上記の教材	[備考] 第1学期の評価方法 1 定期調査の成績、プリント、ノートなどの提出物の内容、学習活動への参加の態度などで評価します。 2 観点別学習状況の評価の4観点を基本として、科目の目標や単元の到達目標に照らし合わせて評価を行います。
	9	(4) デモクラシーと市民文化		
	10	(5) 激動する世界と日本		
	中間調査範囲		上記の教材	
	11	3 現代の世界と日本 (1) 占領と国内改革	<ul style="list-style-type: none"> 第二次世界大戦後の国際関係の推移に着目して、占領政策と諸改革、新憲法の成立、平和条約と独立など、我が国の再出発及びその後の政治の移り変わりや新しい外交関係の確立について理解します。 生活意識や価値観の変化に注目しながら、戦後の経済復興、技術革新と高度成長経済の国際化など日本経済の発展と国民生活の向上について理解します。 	
	12	(2) 国際社会への復帰と高度経済成長		
	期末調査範囲		上記の教材	[備考] 第2学期の評価方法 1 定期調査の成績、課題を設定して追究する学習の成果をまとめたレポート、ノートなどの提出物の内容、学習活動への参加の態度などで評価します。 2 観点別学習状況の評価の4観点を基本として、科目の目標や単元の到達目標に照らし合わせて評価を行います。
1	(3) 石油危機と低成長の時代 (4) 新しい国際秩序と日本の課題			
学年末調査範囲		上記の教材		
[備考] 第3学期の評価方法		1 定期調査の成績、プリント、ノートなどの提出物の内容、学習活動への参加の態度などで評価します。 2 観点別学習状況の評価の4観点を基本として、科目の目標や単元の到達目標に照らし合わせて評価を行います。		
評価の観点	内 容		評 価 方 法	
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 近現代を中心とする我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高めているか。 意欲的に課題を追究するとともに、歴史の学習を通じて、国民としての自覚と国際社会に生きる日本人としての責任を果たそうとしているか。 		<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への参加の仕方や態度 レポート 授業の中で使用するプリント ノート 「自己評価シート」 	
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> 近現代を中心とする我が国の歴史の展開から課題を見いだしているか。 見いだした課題について、世界的視野に立って我が国を取り巻く国際環境などと関連づけ、多面的・多角的に考察して、国際社会の変化をふまえて公正に判断しているか。 		<ul style="list-style-type: none"> 定期調査の記述問題 レポート 授業の中で使用するプリント 発表内容や発表の方法 「自己評価シート」 	
資料活用の技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> 近現代を中心とする我が国の歴史の展開に関する諸資料を様々な方法で収集し、役に立つ情報を主体的に選択して活用しているか。 学習を通して歴史的事象を追究する方法を身につけ、追究し考察した過程や結果を適切に表現しているか。 		<ul style="list-style-type: none"> 定期調査の記述問題 レポート 授業の中で使用するプリント 発表内容や発表の方法 「自己評価シート」 	
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 近現代を中心とする我が国の歴史の展開に関する基本的な事柄を、世界史的視野に立って、我が国を取り巻く国際環境などと関連づけて理解し、その知識を身につけているか。 		<ul style="list-style-type: none"> 定期調査 	
[担当者からのメッセージ]				
<ul style="list-style-type: none"> 基本的な事項や様々な課題の内容を覚えることは必要です。ただし、それ以上に重要なことは、覚えるだけでなく、身の回りの事柄に対して「なぜこうなったのか」「いつから始まったのか」「どのように変化して今日に至っているのか」など、常に問題意識を持ち、流れとして歴史をとらえるように心がけることです。 ノートは単に板書を写すだけでなく、自分で考えたことや感じたこと、興味を持ったことをメモしたり整理したりできるように工夫してみましょう。あとで役立つほか、学習に広がりや生まれます。欠席した場合には、当該時間のノートを級友から借りて写させてもらうことも大切です。 年間の学習により、日本の歴史に関する知識だけでなく、諸外国との様々な関係や地理的要因に基づいて現代世界の動向を見る視野が広がります。 評価については、日本史B(4単位)と合算します。なお、その比率は2(4単位の日本史B):1(2単位の日本史B)の割合で計算します。 				